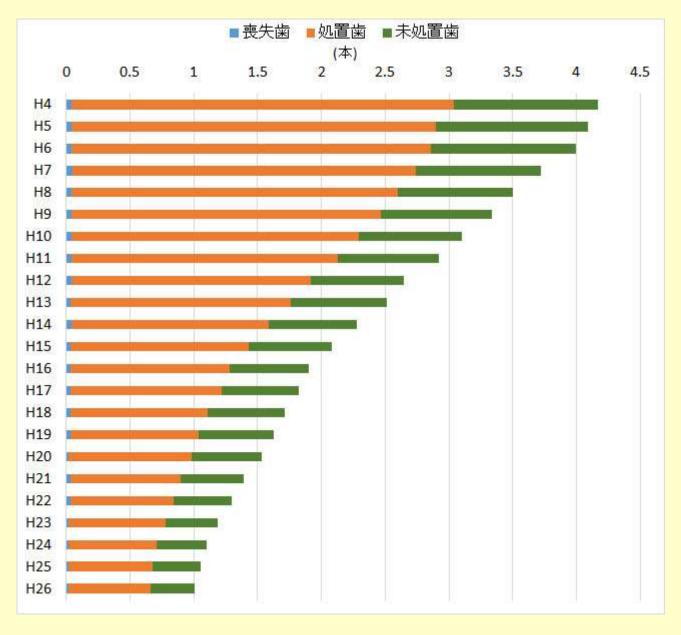
給食後の歯磨きと 歯肉の状況について

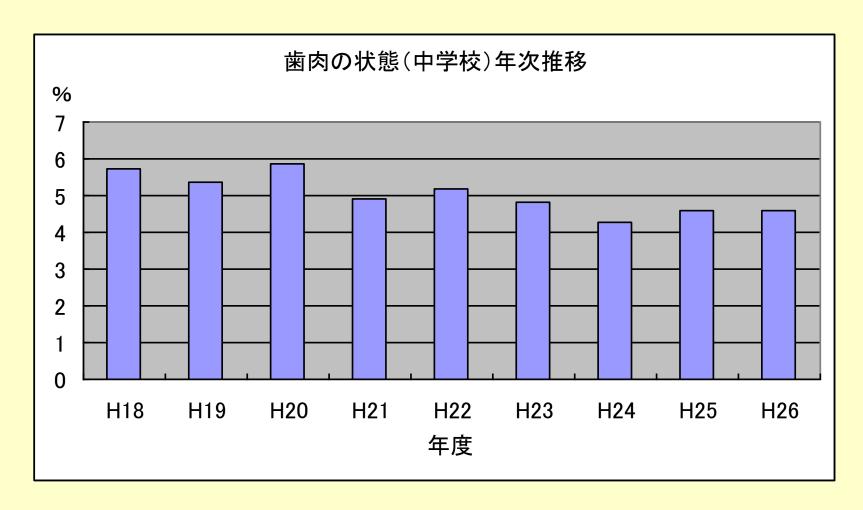
一口腔内写真を用いた歯肉の判定一

練馬区学校歯科医会学術担当理事 郷家英二

12歳の永久歯の一人当たり平均むし歯(う歯)等数の年次推移

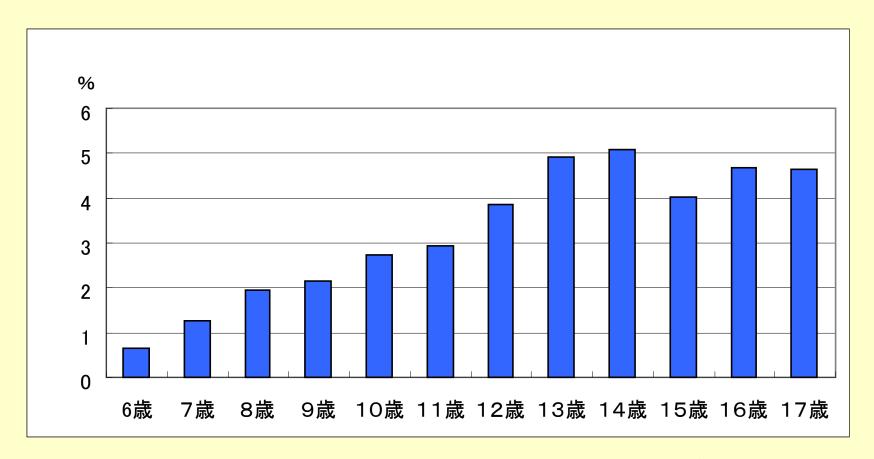


平成26年度 学校保健統計調査報告 文部科学省 (ライオン歯科衛生研究所資料より)



学校保健統計調査から作成

平成26年度学校保健統計調査 歯肉の状態(全国)



文部科学省データより作成

歯肉炎

健康な歯肉



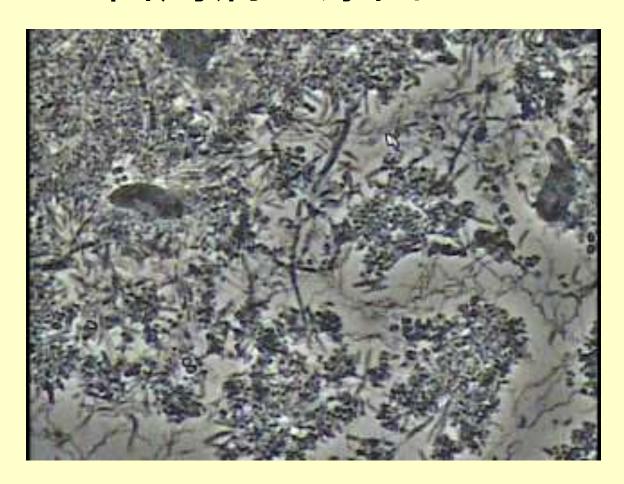


歯周病が進行した状態



歯 周 炎

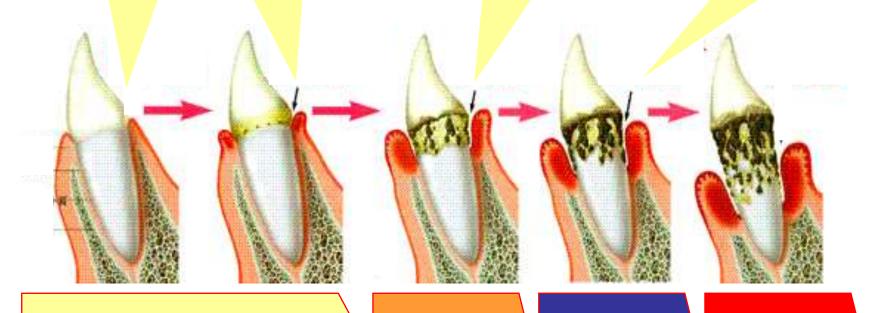
歯周病の原因は?



動き回る歯周病菌!!

歯周病の進行と症状

歯周病菌が歯と 歯茎の隙間に 入り込む さらに入り込み歯 周ポケット ができはじめる どんどん奥に 進行しながら 歯石を作る 歯を支える 骨をも溶かし 始める



自覚症状なしまたは、軽い出血程度

たまに出血軽い腫れ

出血と腫れ 少しグラつく 最終的には 抜けてしまう

普段歯の汚れは見えません



汚れを染め出してみると



調査校と調査時期

- 練馬区立中学校 2校
- A校(給食後の歯みがき非推奨校)
- 平成25年度秋の歯科健診
- **1年生 187名 (男子92名 女子95名)**
- B校(給食後の歯みがき推奨校)

平成26年度春の歯科健診

2年生 112名 (男子71名 女子41名)

* なお、歯科健診前に本研究の趣意書を配布し、保護者および本人が本研究に同意・承諾を得た生徒のみを対象とした。

判定方法

判定部位:下顎前歯部唇側

健康な歯肉の点

▶ GO 1点

歯肉炎 2点



撮影風景

学校歯科医経験5年以上の7名が判定。

最低点 0 点 最高点 14点

なお、カメラの撮影条件は同一人物が同一条件で撮影。

2校299名の歯肉写真をランダムかつ匿名化して、判定者には

中学校名や男女もわからない状態でPC画面上で判定した。

判定結果をWilcoxon検定を用い、有意差の有無を判定した。

GOとは

GO (Gingivitis under Observation)

- a.歯肉に軽度の炎症症候が認められる者
- b.歯石の沈着は認められない者
- c.注意深いブラッシングを行うことによって 炎症症候が消退するような歯肉の状態の者

歯肉写真の代表例



0点(7名全員が健康歯肉0点判定)



6点(0点2名+1点4名+2点1名)

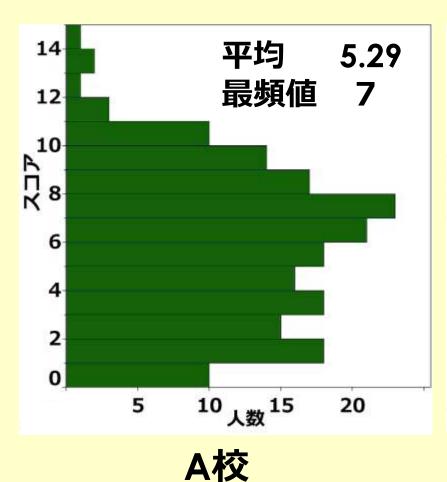


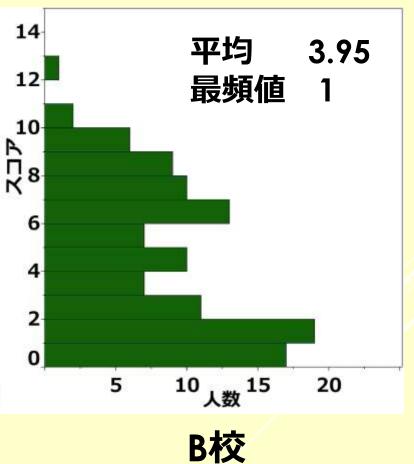
7点(7名全員がGO1点判定)



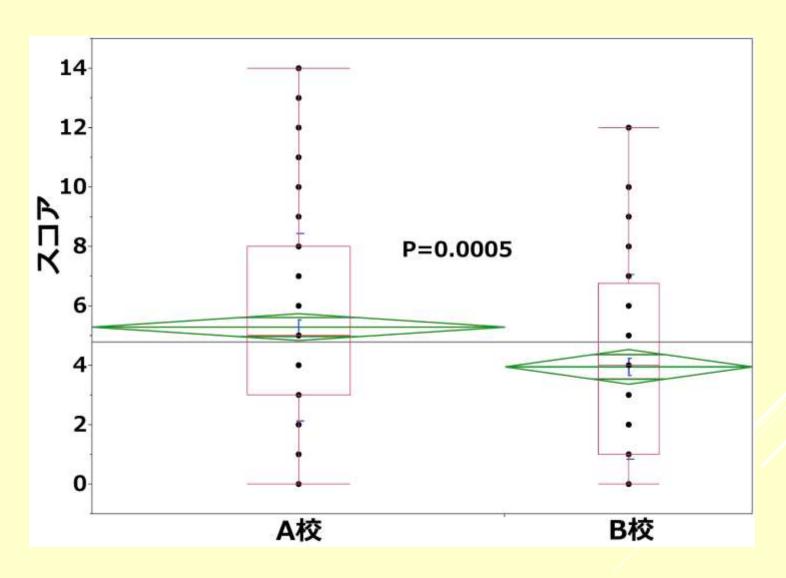
14点(7名全員が歯肉炎2点判定)

2校の男女合計での比較

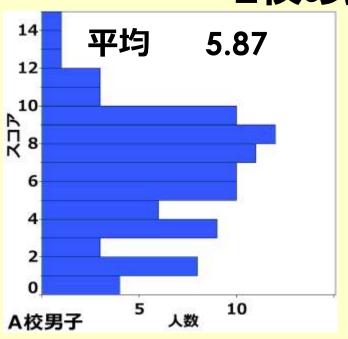


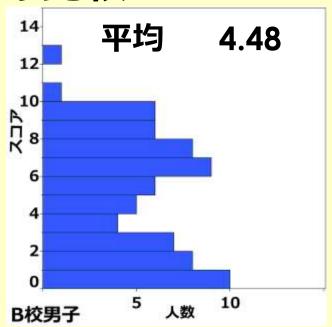


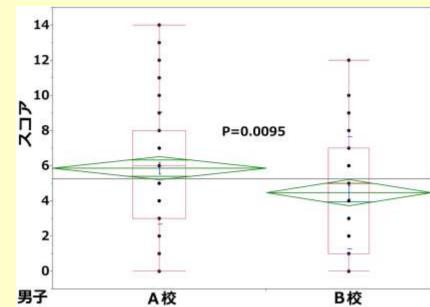
WILCOXON検定



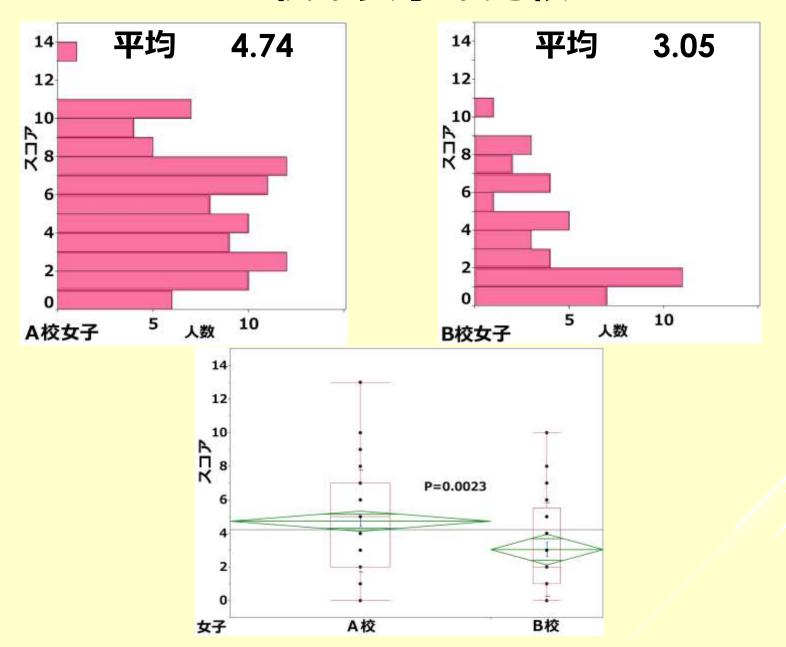
2校の男子の比較







2校の女子の比較

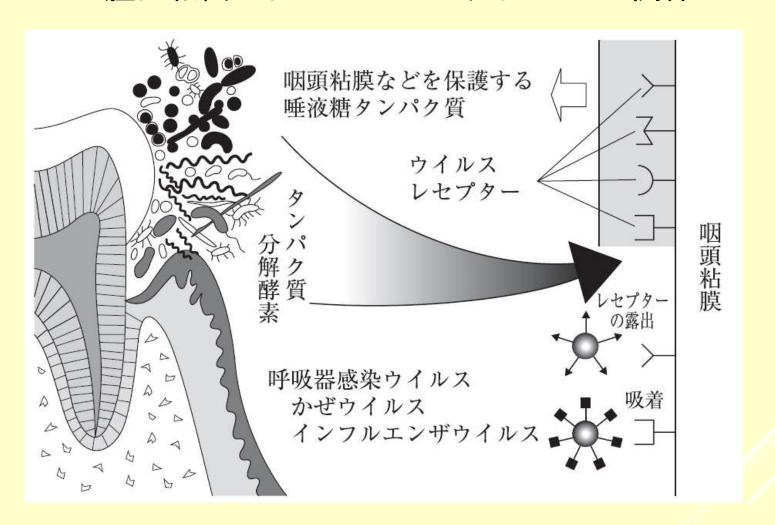


まとめ

- 給食後の歯磨きを奨励実践している中学校は、そのような取り組みをしていない中学校よりも有意に(P=0.0005)歯肉炎の発生が少なかった。
- 歯肉炎予防に給食後の歯磨きがとても効果的であることが示唆された。



口腔内細菌とインフルエンザウイルスとの関係



(日歯医学会誌: Vol26, 2007 P68, 図3より引用)



歯周病が

心臟病

糖尿病

骨粗しょう症

